

大規模農家をターゲットにした  
稲わら、麦わら全量すき込み体系の確立（R6～8年度）



岡山県農林水産総合センター  
農業研究所

## 背景とねらい

県では「岡山県みどりの食料システム戦略基本計画」において、有機質資材の施用による土づくりの推進や水稲収穫後の稲わら秋すき込みによる温室効果ガス排出量の削減に取り組むこととしている

水稲・麦類の二毛作栽培の大規模農家では、後作の作業を効率的に行うために稲わら、麦わらを野焼きする場合があります、PM2.5の発生源の1つになっている

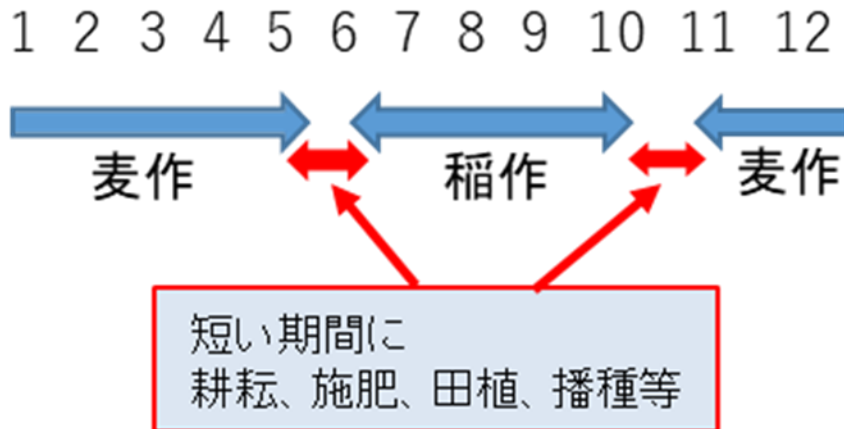
そこで、水稲・麦類の二毛作栽培で、稲わら、麦わらを燃やすことなく有効活用できる、大規模農家でも実行可能な環境にやさしい栽培体系を確立する

# 課題

## 何故、わらを野焼きするのか？

通常のロータリ耕では、わらのすき込みが不十分となり、麦の播種作業や水稻の田植作業の精度・効率が劣る

耕耘作業は天候に左右されるため、特に大規模農家では短時間で効率よくわらをすき込む技術が求められる



麦刈から田植、  
稲刈りから麦播き  
までの期間は短い！

# 試験研究の内容

全量すき込みに適し、後作に影響の少ない  
わらの切断方法を検討しています



# 試験研究の内容

全量すき込みに適し、作業時間の短い  
すき込み方法を検討しています



すき込み特化型ロ  
ータリによる耕耘  
では地表に見られ  
るわらは明らかに  
少なくなります

作業後土を  
上層と下層  
に分けて採  
取し土中の  
わらの分布  
を調べます



## 試験研究の内容

### 今後実施する内容

- 排わらを更に細かく裁断する作業機と各種ロータリとの組合せが「わら」すき込み能力と作業時間に及ぼす影響
- 稲作における移植精度、麦作における播種精度に対する影響